

きやすいカミキリであるにもかかわらず採集例を聞かなかったことも併せて考えれば、本種が佐渡島に侵入したのは比較的最近の可能性がある。

なお、同じ日本海上に浮かぶ粟島では本種はすでに記録されている（草刈広一, 1998, 月刊むし 334: 13-14）。

- (永幡嘉之 990-0057 山形市宮町 5-9-50)
 (鎌苅哲二 224-0001 横浜市都筑区中川 1-2, A-1405)
 (高桑正敏 250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館)

【短報】北海道で得た日本未記録のケシキスイ

北海道で日本未記録のケシキスイを採集したのでここに報告する。同定は Sjöberg (1939), Kirejtshuk (1992) や画像などを参考に筆者がおこなったが、久松定智氏に確認をお願いした。厚く御礼申し上げる。

キタヒラタケシキスイ (和名新称) *Eपुरaea* (*Eपुरaea*) *rufobrunnea* Sjöberg, 1939

9exs., 北海道新得町トムラウシ温泉周辺, 25. VII. 2011, 筆者採集 (4exs. は久松保管, 他は筆者保管)。

体長 3.2-4.2 mm. フィンランドから記載された。黒褐色で、前胸背板および上翅の外縁、頭部、肢などは黄褐色。表面に長くて細い毛をそなえる。前胸背板は横長で、前方へ向けて強く狭まる。上翅は長く幅の約 1.5 倍、側縁はほぼ平行。全ての脛節外角に突起がある。

分布：北海道；ロシア，ヨーロッパ。

引用文献

- Kirejtshuk, A. G., 1992. Nitidulidae. 極東ロシア昆虫分類検索誌, 第3巻甲虫目, 第2分冊, pp.114-209. ナウカ出版, サンクトペテルブルグ。(露文)
- Sjöberg, O., 1939. Beitrag zur Kenntnis der Gattung *Eपुरaea* Er. (Col., Nitidulidae). Bestimmungstabelle der paläarktische Arten. Entomol. Tidskr., 60: 108-126.
 (平野幸彦 250-0865 小田原市蓮正寺 585-29)



図1. キタヒラタケシキスイ。

【短報】紫色のオオアオカミキリ

オオアオカミキリ *Chloridolum* (*Chloridolum*) *thaliodes* Bates, 1884 は、日本および朝鮮半島、中国東北部に広く分布する大型のアオカミキリで、通常の個体では、頭部と上翅は青緑色、前胸背板は青緑色から銅緑色、まれに紫色となる (新里, 2007)。この色彩には、「日本海側のサワグルミをのみを食べる個体群のほうが青みが強く、太平洋側のオニグルミを食べる個体群には褐色を帯びる個体が目立つ」など、出現頻度や境界の不明瞭な変異があるという (永幡, 2010)。

Bentanachs *et al.* (2011) は、日本 (Kioto) から記載されているが長い間不明種として扱われていた *Aromia japonica* Podaný, 1968 が、実はオオアオカミキリの暗紫色の色彩変異個体であったことを、両種のタイプ標本を検討することによって明らかにした。オオアオカミキリの暗紫色の色彩変異は従来知られていなかったが、同論文には秋田勝己氏 (私信) が、同様の紫色の変異個体を実見していることにも簡単に触れている。しかし、いずれにしても、紫色のオオアオカミキリは、*Aromia japonica* のホロタイプ標本以外に公に知られていない。

最近、官能健次氏のご厚意により、同氏が木曾御岳で採集された紫色のオオアオカミキリを実見することができた。全形の原色写真を図示して、記録を書きとめておく。

検視標本：オオアオカミキリ：1♂, 岐阜県木曾御岳 (日向～本巣), 16-VII-1992, 官能健次採集 (新里標本保管)。

検視個体の色彩は次の通り。体背面は広く紫色で光沢が鈍く、頭部は頭盾や後頭が部分的に青緑色、上翅は縫合部周辺が背面から見たときにかすかに青みがかかる。体腹面は紫色の前胸腹板を除き暗青緑色で光沢は鈍い。触角と肢は黒色。

貴重な標本を検する機会を与えられた



図1. 紫色のオオアオカミキリ。

官能健次氏に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- Bentanachs, J., T. Niisato & N. Ohbayashi, 2011. Synonymic notes on callichromatine species (Coleoptera, Cerambycidae, Cerambycinae) described from Japan. *Elytra*, New Series, 1: 125-129.
- 永幡嘉之, 2010. 翳りのある表情～オオアオカミキリ～. 月刊むし, (476): 14-20.
- 新里達也, 2007. 2・3章: 図解検索と種の解説 (カミキリ亜科). 大林延夫・新里達也 (編): 日本産カミキリムシ, pp. 252-281, 424-512. 東海大学出版会, 秦野.

(新里達也 162-0053 東京都新宿区原町 3-19
(株) 環境指標生物)

【短報】上地島 (沖縄県八重山諸島) のゴミムシダマシ科採集記録

沖縄県八重山諸島の新城島は東西に隣接する2つの島を併せた呼び名で、上地島は西側に位置する島である。面積1.76 km²の細長く平坦な小島で昆虫の調査記録は少ない。この島で2011年の5月と6月の2回昆虫の採集する機会を持った。ゴミムシダマシ類について種類数は多くないが報告しておく。採集者は全て筆者である。

ヤエヤマオオスナゴミムシダマシ *Gonocephalum kondoi* Masumoto

6exs., 31. V. 2011.

既産地: 石垣島, 竹富島, 西表島。

ミナミモンキゴミムシダマシ *Diaperis lewisi intersepta* Gebien

1ex., 31. V. 2011.

既産地: 奄美諸島, 八重山諸島; 台湾, 香港, インドシナ, ミャンマー。

オオスジカブトゴミムシダマシ *Bradymerus clathratus* Schaufuss

2exs., 30. VI. 2011.

既産地: 石垣島, 竹富島, 西表島, 波照間島; 台湾, アッサム, アンダマン諸島, ボルネオ, スマトラ, ジャワ, インドネシア, フィリピン, スラウェシ, ニアス。

ミナミエグリゴミムシダマシ *Uloma excise nanseiensis* Masumoto et Nishikawa

1ex., 29. VI. 2011.

既産地: トカラ諸島, 奄美大島, 徳之島, 沖永良部島, 沖縄島, 伊平屋島, 久米島, 宮古島, 石垣島, 西表島, 黒島, 波照間島, 与那

国島。

リュウキュウヒメツノゴミムシダマシ *Cryphaeus satoi* Kaszab

1ex., 31. V. 2011

既産地: 口永良部島, トカラ中之島, 奄美大島, 徳之島, 沖縄島, 石垣島, 西表島; 台湾, 緑島 (Lutao)。

西表島から *C. satoi iriomotensis* M. T. Chûjô が別亜種として記載されているが, 秋田・益本 (2006) により他の島と区別できないとして亜種区分は消されている。また和名も同論文でタカラヒメツノゴミムシダマシからリュウキュウヒメツノゴミムシダマシに改称されている。

カラカネチビキマワリモドキ *Tetragonomeus palpaloides* (Nakane)

6exs., 29. VI. 2011; 1ex., 30. VI. 2011; 1ex., 31. VI. 2011.

既産地: 九州, 屋久島, 薩摩黒島, トカラ列島以南与那国島まで, 鳩間島, 大東諸島。

上地島からゴミムシダマシを6種記録した。この島からのゴミムシダマシの報告はなく、いずれも新記録である。既産地をみると採集した種はいずれも近隣の石垣島や西表島からも共通して記録されているもので、この島固有の種はみられなかった。また同じ八重山諸島で島の規模がよく似ている、西表島から同じような距離に位置している鳩間島から9種類の本科甲虫を記録しているが(楠井, 2012)、今回の記録と比較して共通種が1種しかないのは興味がある。

末尾であるが、報告に当たり益本仁雄博士に同定いただいたことを記して厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 東 清二 (監), 2002. 琉球列島産昆虫目録, 沖縄生物学会, 240-247.
- 秋田勝己・益本仁雄, 2006. 日本産のヒメツノゴミムシダマシ属(ゴミムシダマシ科)について. 甲虫ニュース, (155): 1-7.
- 楠井善久, 2011. 鳩間島のゴミムシダマシ採集記録. さやばねニューシリーズ, (4): 36-37.

(楠井善久 643-0004 有田郡湯浅町大字湯浅1043)